

平成21年 6月 5日現在

研究種目：基盤研究（B）
 研究期間：2005～2008
 課題番号：17320102
 研究課題名（和文） 近世巨大都市大坂の形成と変容に関する基盤的研究
 —法と現実、中心と周縁の視点から—
 研究課題名（英文） Basic Research on the Formation and Substance of the Early Modern Metropolis of Osaka: From the Perspectives of 'Law and Reality' and 'Center and Periphery'
 研究代表者
 塚田 孝 (TSUKADA TAKASHI)
 大阪市立大学・大学院文学研究科・教授
 研究者番号：60126125

研究成果の概要：本研究は、近世大坂の都市社会の形成（17世紀）と変容（19世紀）の実態を、都市法と社会との関係や身分的周縁の方法論に注目して考察したものである。(1)17世紀の大坂に関する史料を中心に調査・収集を行った。(2)17世紀の町触や、明治初年の布令について、法の形式と内容を緻密に読み解く作業をおこない、翻刻史料集を刊行した。(3)(1)(2)を基盤にして、近世大坂研究会やシンポジウムを開催し、個別の実証分析と方法論を深化させた。(4)近世大坂と海外を含む大坂以外の都市との比較を行い、合わせて同様の関心を持つ海外研究者との交流も積極的に行った。

交付額

(金額単位：円)

| | 直接経費 | 間接経費 | 合計 |
|--------|-----------|-----------|-----------|
| 2005年度 | 2,600,000 | 0 | 2,600,000 |
| 2006年度 | 2,000,000 | 0 | 2,000,000 |
| 2007年度 | 2,200,000 | 660,000 | 2,860,000 |
| 2008年度 | 1,600,000 | 480,000 | 2,080,000 |
| 総計 | 8,400,000 | 1,140,000 | 9,540,000 |

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：巨大都市、大坂、都市法制、社会構造、周縁

1. 研究開始当初の背景

近世都市大坂のイメージは、いわゆる「天下の台所」と呼ばれるように、経済発展を遂げていた18世紀の様子で語られることが多い。こうしたステレオタイプで語られる安易なイメージではなく、17世紀～19世紀の都市大坂の具体的な歴史像をトータルに把握する必要がある。とくに、(1)豊臣期や大坂の陣後の復興期と、17世紀の都市開発を分断して捉えるのではなく、17世紀の都市形成期を段階的かつ連続的に把握することや、(2)近世～近代移行期における都市大坂について、近世と近代の都市史研究の分断状況を克服し、激動する19世紀の都市社会状況を、連続性も視野に入れつつ変容過程を解明することなど、社会構造の実態を通時代的に明

らかにする必要があると考えた。

2. 研究の目的

17世紀・19世紀は、都市大坂の形成期・動揺（＝変容）期であり、そのことは同時に法体系の構築期ならびに転換期といえる。それぞれの時期は、法が現実の社会を改変し、また社会の実態が法に反映されるように、法と現実の社会の関係がきわめて強い緊張関係にあった。また、法が規定する内容と現実社会のギャップは、様々な局面で現れる。こうした関係は、都市の（社会的・空間的）「中心」よりも「周縁」により顕著に現れる。

そこで本研究では、「法と現実・中心と周縁」という方法的視座のもと、一次史料の収集・整理や研究を通じて、都市大坂の実態の

解明を行うことを目的とした。とくに現存史料や研究成果の少ない17世紀・19世紀を重点的に取り扱うことにした。

以上の成果を踏まえ、日本や世界の諸都市における法と社会のあり様にも視野を拡げ、それらの比較研究にも着手することを目指した。

3. 研究の方法

(1)近世大坂研究会の実施

研究代表者・分担者を中心に、連携研究者、研究協力者を含めて組織し、研究計画の立案、調査・研究状況の確認のほか、とくに研究発表や関連図書の書評などを実施した。

(2)史料調査の実施

都市に触れられた都市法を調査、収集した。
①17世紀および近世近代移行期の大阪町触・大阪府布令などの法史料、②17世紀の史料（絵図史料を含む）、③近世大坂の諸身分集団（とくに周縁的身分）関係史料を収集した。とくに②に関しては全国の史料所蔵機関に目を配り、大阪以外に伝わる大坂関係の史料を調査した。

(3)法史料輪読会の実施

①町触輪読会 17世紀大坂の町触を精読する輪読会を隔月で開催し、同時に『大阪市史』(1915年)の校訂を進め、町触翻刻史料集を刊行した。

②布令輪読会 明治初年に触れられた布令を輪読し、『大阪府布令集』の校訂を行った。

(4)シンポジウム (1)～(3)の基礎的な研究活動を基盤に、実証研究の集約と方法的な問題を議論するためシンポジウムを開催した。とくに国内外の都市社会史研究者を招き、諸都市における法と社会の関係を議論し、比較・類型化を図った。

4. 研究成果

(1)史料調査

以下の史料群の調査の収集を行った。

- ①京都大学総合博物館所蔵「杉山家文書」のうち「大坂御仕置御書出之写」
- ②大阪市立中央図書館所蔵「小林家文書」のうち、「御池通五丁目・六丁目文書」ならびに明治初年の大阪府「布令」
- ③大阪府立中之島図書館所蔵「菊屋町文書」・「道修町三丁目文書」「大坂御仕置留」
- ④大阪歴史博物館所蔵「大坂三郷町絵図」・「安井家文書」
- ⑤御津八幡宮文書（大阪市中央区）
- ⑥熊本大学附属図書館寄託永青文庫（細川家文書）の大坂関係古文書
- ⑦国立公文書館所蔵内閣文庫の大坂関係古

文書（「古記録」）

⑧神戸市立博物館所蔵「悲田院長吏文書」や西町奉行所絵図

⑨九州大学法制史資料室所蔵史料のうち大坂関係史料

⑩国立国会図書館東京本館「狂言堂続売文録」のうち、六斎念仏西方寺関係史料

※うち①および③の「大坂御仕置留」については史料集を刊行した。

(2)法史料輪読会の実施

①町触輪読会（全29回）

| | |
|-------------|----------|
| 2005年4月2日 | 於大阪市立大学 |
| 2005年5月3日 | 於大阪市立大学 |
| 2005年5月29日 | 於大阪市立大学 |
| 2005年7月16日 | 於大阪市立大学 |
| 2005年8月22日 | 於大阪市立大学 |
| 2005年10月10日 | 於大阪市立大学 |
| 2005年11月27日 | 於大阪市立大学 |
| 2006年1月22日 | 於大阪歴史博物館 |
| 2006年2月19日 | 於大阪市立大学 |
| 2006年3月21日 | 於大阪市立大学 |
| 2006年5月1日 | 於大阪市立大学 |
| 2006年6月12日 | 於大阪歴史博物館 |
| 2006年7月23日 | 於大阪市立大学 |
| 2006年9月10日 | 於大阪市立大学 |
| 2006年10月15日 | 於大阪市立大学 |
| 2006年12月17日 | 於大阪市立大学 |
| 2007年2月4日 | 於大阪市立大学 |
| 2007年4月8日 | 於大阪市立大学 |
| 2007年5月13日 | 於大阪市立大学 |
| 2007年7月15日 | 於大阪市立大学 |
| 2007年9月29日 | 於大阪市立大学 |
| 2007年11月4日 | 於大阪市立大学 |
| 2008年1月13日 | 於大阪市立大学 |
| 2008年3月22日 | 於大阪市立大学 |
| 2008年5月10日 | 於大阪市立大学 |
| 2008年7月20日 | 於大阪市立大学 |
| 2008年8月31日 | 於大阪市立大学 |
| 2008年11月24日 | 於大阪市立大学 |
| 2009年2月1日 | 於大阪市立大学 |

17世紀の大坂町触をおさめた「大坂御仕置御書出之写」（杉山家文書）を素材に1点ずつ形式と内容について詳細に検討した。これを通して『大阪市史』では略や欠となっている触や全く掲載のない触について把握することができた。これらの作業、議論を通して、形式面では、①町触を掲載している『大阪市史』の編集方法、②「町触頭書」と「口達触頭書」の差異、③全国触や江戸町触・京都町触との差異などが明らかとなった。その翻刻・校訂の成果は、『大坂御仕置御書出之写』「大坂御仕置留」—近世大坂町触関係史料2—』(2007)として刊行した。また、内容面の成果としては特定のテーマを立てて整理して『近世大坂の法と社会』（清文堂2007）

に論考やコラム（古金買・古手買、家屋敷売買、牢人統制、博奕、火事）として収録している。

②大阪布令輪読会（全5回）

2008年6月15日 於大阪市立大学
2008年8月9日 於大阪市立大学
2008年10月5日 於大阪市立大学
2008年12月13日 於大阪市立大学
2009年2月21日 於大阪市立大学

大阪市立中央図書館小林家文書「御布令留」を素材に、『大阪府布令集』や関連史料との比較検討を進めた。これにより『大阪府布令集』では法の差出や宛先が省略されている点や、実際に大坂で触れられた日付を誤って掲載しているなど、数多くの不備が確認できた。また、法の形式と内容から、幕末維新期の大坂の都市社会の実態に関する考察を深めた。こうした営為を、近世史・近代史の研究者が共同で行うことで、通時代的な都市社会把握が可能となった。

(3)近世大坂研究会（全11回）

2005年7月17日 於大阪市立大学
八木滋「近世大坂都市史研究の現状と課題—17世紀を中心として—」
マーレン・エーラス「大野藩の古四郎一藩社会の中の非人集団—」

2005年8月21日 於大阪市立大学
屋久健二「近世大坂における薩摩問屋」

2005年12月4日 於大阪市立大学
熊谷光子「大坂町奉行所における明和3・4年の仕法改正について—明和3・4年金銀出入取捌き仕法と明和7年一領一支配切仕法—」
高久智弘「旗本論からみた大坂町奉行一役職補任過程の検討を中心に—」

2006年7月22日 於大阪市立大学文学部会議室
塚田孝「近世大坂の都市下層と勸進」
斉藤紘子・中西威晴「書評：渡辺祥子著『近世大坂薬種の取引構造と社会集団』」

2006年12月17日 於大阪市立住まい情報センター3F
岩本馨・八木滋「書評：谷直樹著『町に住まう知恵—上方三都のライフスタイル—』」

2007年5月12日 於部落問題研究所
澤博勝・森下徹「書評：塚田孝著『近世大坂の非人と身分的周縁』」

2007年11月3日 於大阪市立大学
多和田雅保「再論・近世の上飯田村を知る—羽場地区について—」
多和田真理子「村の小学校設置から地域をみる—「全体史」への一步」
羽田真也「地域史研究の視角・方法・意義をめぐって」
岡本一也「近代地域史研究の方法的模索—大阪府泉州農村を対象とした地域史研究から考えていること—」

2008年1月12日 於大阪歴史博物館
山下聡一「近世都市大坂・生玉神社の社家仲間の内部構造」

2008年7月5日 於大阪市立大学高原記念館特別会議室
スティーブ・ウィルズ「江戸の火消人足と都市社会」
中西威晴「大坂の火消人足と都市社会」

2008年11月23日 於大阪市立大学
石岡知久・西本菜穂子・藤井正太「書評：杉森哲也著『近世京都の都市と社会』」

2009年2月22日 於大阪市立大学
塚田孝「近世大坂における都市法と社会」
八木滋「科研総括」

(4)シンポジウム（全3回）

2006年4月29・30日 シンポジウム「近世大坂の法と社会」於大阪市立大学学術総合情報センター文化交流室
塚田孝「近世大坂の法と社会」
松本良太「江戸の町触について—天保期の名主寄合とその性格」
杉森哲也「近世初期京都の都市法と都市社会」
井上徹「明清時代における法の伝達」
井上浩一「ビザンツ帝国における法」
野高宏之「町触とは何か」
安竹貴彦「延享期の近世大坂町奉行所改革」
海原亮「都市大坂の医療文化と町触規制」
岩城卓二「尼崎藩における大坂町触通達」
吉田伸之「都市の〈法と社会〉をめぐる二、三の論点」

2006年9月30日 シンポジウム「都市に対する歴史的アプローチと社会的結合」(OE国際シンポジウム分科会と共催)、於大阪市立大学全学教育棟820教室
塚田孝「問題提起」
セッション①「流通・金融と都市」
萬明「明代の「貢市」と寧波の港湾機能」
森下徹「近世前期の萩藩大坂蔵屋敷」
町田哲「近世初期の祖谷山請負商人と大坂」

- セッション②「近世大坂の芸能文化」
 久堀裕明「近世淡路人形座と大坂」
 神田由築「大坂の芸能と都市民衆」
 阪口弘之「都市芸能としての浄瑠璃」
 セッション③「都市大坂の自他認識」
 脇田修「大坂(阪)人の大坂認識」
 リ・ナランゴア「The Development of Hohhot
 and Osaka」
 土屋礼子「コメント」

2008年9月6、7日 於大阪市立大学学術情報総合センター1F文化交流室

- 塚田孝「身分的周縁の比較類型論—近世大坂の法と社会—」
 原直史「近世大坂における塩干魚・鯉節流通と仲間」
 八木滋「近世大坂の川魚市場」
 マーレン・エーラス「越前大野城下の御救い」
 藤本清二郎「城下町世界の勸進者—和歌山の場合—」
 吉田ゆり子「信州下伊那地域における身分的周縁—飯田藩牢守と諸集団との関係—」
 三田智子「泉州南王子村の雪踏」
 ※報告内容は、塚田孝編『身分的周縁の比較類型論—近世大坂の法と社会』(清文堂出版)として、2009年中に刊行予定。

(3)近世大坂研究会と(4)シンポジウムでは、上記のような個別報告を通し、内容的には、近世大坂の多様な社会集団・身分集団の細部に立ち入った分析を行い、集団の実態を明らかにするとともに、それらを総合して大坂の都市社会構造を解明してきた。成果としては、こうした内容面だけではなく、以下のような方法的に新しい視点も獲得することができた。

①「法と社会」という視角

1)法の作成者やその対象者、あるいは伝達ルートという[法の形式]に、それぞれに関わる人々や社会集団の実態が反映していること、2)[法の内容]そのものから社会の実態へ迫る、という二つの視角を統一的に把握する方法論を獲得してきた。その際、法が社会を規定するとともに、社会の実態が法を変容させる点、法の内容と社会の実態が必ずしも一致していない点など、法と社会の関係に注意を払いながら都市社会の実態解明を進める視野を獲得することができた。

②都市法分析の3つのレベルと身分的周縁

都市法を分析する場合、1)都市の政治空間全体をおおう公儀法度、2)社会集団を内的に規律する法、3)集団間の関係を規定する法、という3つのレベルを総体的に把握する必要があることを提起した。これは、身分的

周縁研究の中で提起されてきた歴史分析の3つの位相(社会集団の内部構造/社会集団間の関係/それらを取り巻く世相状況)とも照応する。

都市法分析のいずれのレベルにおいても「法と社会」の視角は有効であるが、自らの史料を残すことの少ない身分的周縁に位置する人々の都市生活実態を解明するためには、公儀法度レベルの法史料の「法と社会」視角からの分析が特に有効である。

③比較類型論

2006年に開催したシンポジウムでは、「法と社会」の視点に基づいた、大坂・京都・江戸の三都の実証分析を意図した。また同時に、中国やビザンツにおける「法と社会」の視点からの報告を用意し、世界諸都市における社会基盤(地域的共同組織の有無)が法の伝達方法や法史料蓄積方式の違いに現れることを見いだした。また、2008年シンポジウムでは、乞食勸進層の実態に関して、地方城下町における存在形態との比較を行った。

なお、研究会・シンポジウムなどの企画においては、国内外の研究者の実証研究報告を組織した。また、ノースカロライナ大学・プリンストン大学・ハーバード大学などでの研究会・シンポジウムに参加し、現地の日本史研究者とともに、「法と社会」についての意見交換を行った。こうした海外研究者を含めた研究の組織化を図ったことで、今後、都市社会の比較類型論の共同研究を進める上で、の基盤を作ることができた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計33件)

- (1) 塚田孝「都市大坂と武士」大阪歴史博物館『共同研究成果報告書3』、2009、24~32、査読なし
- (2) 八木滋「[資料紹介]細川藩大坂蔵屋敷絵図」『共同研究成果報告書』3、大阪歴史博物館、2009、53~59、査読なし
- (3) 仁木宏「美濃加納楽市令の再検討」『日本史研究』557、2009、1~25、査読あり
- (4) 佐賀朝「近代史部会コメント 明治初年の遊廓統制と「遊廓社会」—一人見報告によせて(2008年度[大阪歴史学会]大会特集号)」『ヒストリア』213、2009、242~252、査読あり
- (5) 塚田孝「近世後期・大坂の髪結に関する一考察」『大阪商業大学商業史博物館紀要』9、2008、37~49、査読なし
- (6) 八木滋「佐賀藩大坂蔵屋敷のネットワーク—「家質公訴内済記録」を通して」『大阪商業大学商業史博物館紀要』9、2008、67~82、査読なし
- (7) 塚田孝「近世日本の社会的結合」『都市文

化創造のための比較的研究』2008、19～29、査読なし

(8) 佐賀朝「現代における地域史研究の課題について—日本近代都市社会史の立場から」『部落問題研究』184、2008、136～158、査読あり

(9) 町田哲「近世中後期における藍師後藤家の展開」地方史研究協議会編『歴史にみる四国—その内と外と—』雄山閣、2008、59～83、査読あり

(10) 塚田孝「近世大坂の法と社会」塚田孝編『近世大坂の法と社会』清文堂、2007、査読なし

(11) 安竹貴彦「延享期の大坂町奉行所改革」塚田孝編『近世大坂の法と社会』清文堂2007、123～163、査読あり

(12) 岩城卓二「尼崎藩における大坂町触」塚田孝編『近世大坂の法と社会』清文堂2007、195～229、査読あり

(13) 森下徹「萩藩に伝わる大坂町触」塚田孝編『近世大坂の法と社会』清文堂、2007、230～237、査読あり

(14) 八木滋「慶安触以降の家屋敷売買の手続きについて」塚田孝編『近世大坂の法と社会』清文堂、2007、434～439、査読あり

(15) 森下徹「萩藩大坂蔵屋敷の成立」『都市に対する歴史的アプローチと社会的結合』大阪市立大学文学研究科 COE 国際シンポジウム・分科会報告書、2007、20～34、査読なし

(16) 町田哲「近世前期の祖谷谷山請負商人と大坂」『都市に対する歴史的アプローチと社会的結合』大阪市立大学文学研究科 COE 国際シンポジウム分科会報告書、2007、35～58、査読なし

(17) 八木滋「青物商人」原直史編『身分的周縁と近世社会 3 商いがむすぶ人びと』吉川弘文館、2007、73～104、査読あり

(18) 塚田孝「宿と口入」原直史編『身分的周縁と近世社会 3 商いがむすぶ人びと』吉川弘文館、2007、161～189、査読あり

(19) 森下徹「身分社会のなかの武士」森下徹編『身分的周縁と近世社会 7 武士の周縁に生きる』吉川弘文館、2007、1～12、査読あり

(20) 森下徹「武士の周縁に生きる—萩城下と家臣団」森下徹編『身分的周縁と近世社会 7 武士の周縁に生きる』吉川弘文館、2007、204～241、査読あり

(21) 安竹貴彦「寛保～延享期における大坂町奉行所の金銀出入取捌法改革」『大阪商業大学商業史博物館紀要』8、2007、11～27、査読なし

(22) 安竹貴彦「天理大学附属図書館所蔵「裁判心得」(1)一八世紀後半の京都町奉行所関係文書」『法学雑誌』4(1)、2007、434～458、査読なし

(23) 仁木宏「寺内町と城下町—戦国社会の達成と継承—」懐徳堂記念会編『大坂・近畿の

城と町』和泉書院、2007、39～68、査読なし
(24) 佐賀朝「町村」の近代化と地主—大阪・難波村を事例に (特集 分節構造と社会的結合) 『年報都市史研究』、山川出版社、2007、66～78、査読あり

(25) 佐賀朝「日本橋改良住宅地域の生活史—裏長屋から「改良」を経て戦後「立体長屋」へ」『歴史科学』190、2007、33～35、査読あり

(26) 塚田孝「都市の周縁と身分的周縁」塚田孝編『身分的周縁と近世社会 4 都市の周縁に生きる』吉川弘文館、2006、1～12、査読あり

(27) 塚田孝「都市の周縁に生きる—17世紀の大坂・三津寺町—」塚田孝編『身分的周縁と近世社会 4 都市の周縁に生きる』吉川弘文館、2006、185～232、査読あり

(28) 塚田孝「身分的周縁論」『日本歴史』00、2006、104～112、査読あり

(29) 森下徹「左官」後藤雅知編『身分的周縁と近世社会 1 大地を拓く人びと』吉川弘文館、2006、155～186、査読あり

(30) 町田哲「新田請負人」後藤雅知編『身分的周縁と近世社会 1 大地を拓く人びと』吉川弘文館、2006、45～82、査読あり

(31) 塚田孝「身分的周縁論」『日本史講座 6 近世社会論』東京大学出版会、2005、193～230、査読あり

(32) 塚田孝「近世大坂における牛馬皮の流通」伊藤毅・吉田伸之編『水辺と都市』山川出版社、2005、55～77、査読あり

(33) 塚田孝「人別帳と掟を通じてみた近世の身分」『部落問題研究』173、2005、44～57、査読あり

〔学会発表〕 (計15件)

(1) 塚田孝“都市法” 紀要—以近代大阪为例、復旦大学・ハーバード大学共催「都市繁华：1500年来的东亚城市生活史」国际学术研讨会、中国復旦大学、2009年3月26日

(2) 森下徹、「萩城下町の家屋敷売買」Symposium “Law and Society in the Early Modern Japanese Town”、2009年3月10日、プリンストン大学

(3) 塚田孝“Preliminary Notes on a Study of ‘Urban Law’ - the Case of Early Modern Osaka” Symposium “Law and Society in the Early Modern Japanese Town” 2009年3月9日、米国プリンストン大学

(4) 八木滋、「近世大坂の寺院五人組と宗旨卷」、Conference and Workshop, “New Perspectives on Early Modern Social History: Tokugawa Japan and the World”、2009年3月5日、米国ノースカロライナ大学チャペルヒル校

(5) 塚田孝“Law and Society in the Cities of Tokugawa Japan” Conference and

Workshop, "New Perspectives on Early Modern Social History: Tokugawa Japan and the World" 2009年3月3日、米国ノースカロライナ大学チャペルヒル校

(6) 佐賀朝「近世～近代「遊郭社会」研究の課題」、都市史研究会シンポジウム「遊郭社会」、2008年11月1日、東京大学工学部1号館15号教室

(7) 塚田孝「近世大坂の法と社会—17世紀前半の都市法から—」、大阪歴史学会近世史部会、2007年12月7日、梅田東生涯学習ルーム

(8) 町田哲「近世中後期における藍師後藤家の展開」地方史研究協議会第58回(高松)大会、2007年10月28日、サンポートホール高松

(9) 塚田孝「大坂町触と惣年寄・惣代」法制史学会第59回総会、2007年4月22日、大阪市立大学

(10) 塚田孝「『都市法』への視角」都市史研究会例会、2006年8月18日、東京大学

(11) 塚田孝「17世紀・大坂の都市像の再検討」北陸都市史学会29回大会、2006年8月6日、福井大学

(12) 塚田孝「大坂の都市社会と宿」ハーバード大学シンポジウム「近世日本の都市と社会」、2006年3月31日、米国ハーバード大学

(13) 塚田孝「近世身分制社会という捉え方—朝尾直弘氏の近世社会論—」第43回部落問題研究者全国集会、歴史Ⅱ、京都橘学、2005年10月30日

(14) 塚田孝「《都市大坂》の形成過程」日本建築学会都市計画委員会、都市形成・計画史小委員会、第十四回都市形成・計画史公開研究会「大阪の都市空間の原形と郊外」、2005年8月31日、エル・おおさか(大阪府立労働センター)

(15) 塚田孝「17世紀大坂の都市像の再検討」大阪市立大学文学研究科COEプログラム他シンポジウム「大阪および日本の都市の歴史的発展」、2005年6月11日、大阪市立大学

〔図書〕(計9件)

(1) 『大阪歴史博物館所蔵 明暦元年大坂三郷町絵図』大阪市立大学大学院文学研究科都市文化研究センター・大阪歴史博物館編、2008

(2) 『「大坂御仕置御書出之写」 「大坂御仕置留」—近世大坂町触関係史料2—』大阪市立大学大学院文学研究科都市文化研究センター、2007

(3) 塚田孝『近世大坂の非人と身分的周縁』部落問題研究所、2007

(4) 塚田孝・森下徹他6名編『身分的周縁と近世社会9 身分的周縁を考える』吉川弘文館、2007

(5) 森下徹編『身分的周縁と近世社会7 武

士の周縁に生きる』、吉川弘文館、2007

(6) 塚田孝編『近世大坂の法と社会』清文堂、2007

(7) 佐賀朝『近代大阪の都市社会構造』日本経済評論社、2007

(8) 塚田孝『近世大坂の都市社会』吉川弘文館、2006

(9) 塚田孝編『身分的周縁と近世社会4 都市の周縁に生きる』、吉川弘文館、2006

6. 研究組織

(1) 研究代表者

塚田 孝 (TSUKADA TAKASHI)

大阪市立大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号：60126125

(2) 研究分担者(2008年度より連携研究者へ)

仁木 宏 (NIKI HIROSHI)

大阪市立大学・大学院文学研究科・准教授

研究者番号：90222182

安竹 貴彦 (YASUTAKE TAKAHIKO)

大阪市立大学・大学院法学研究科・教授

研究者番号：20244626

谷 直樹 (TANI NAOKI)

大阪市立大学・大学院生活科学研究科・教

授

研究者番号：40159025

岩城 卓二 (IWAKI TAKUJI)

京都大学人文科学研究所・准教授

研究者番号：20232639

森下 徹 (MORISHITA TOURU)

山口大学・教育学部・准教授

研究者番号：90263748

佐賀 朝 (SAGA ASHITA)

桃山学院大学・経済学部・准教授

研究者番号：40319778

町田 哲 (MATHIDA TETSU)

鳴門教育大学・学校教育学部・准教授

研究者番号：60380135

八木 滋 (YAGI SHIGERU)

財団法人大阪市文化財協会・大阪歴史博物

館・学芸員

研究者番号：70311446

飯田 直樹 (IIDA NAOKI)

財団法人大阪市文化財協会・大阪歴史博物

館・学芸員

研究者番号：10332404

(3) 連携研究者

2008年度より研究分担者を連携研究者へ変更。